

# ～地元で記録紙を造り続けて 未来をクリエートする～ ニッセイロールペーパー株式会社



このコーナーでは、市内在住の市民編集委員が清瀬に関連する施設や事業者を巡って、清瀬の特徴を紹介します。



市民編集委員

山本美香さん  
(竹丘在住・主婦)

代。たくさんのものと情報、急激な早さで流れる現

その一方で、改良を続けながらも、変わらず存在し続けるものがあります。それは、スーパードで受け取るレシートやタクシーの領収書、電化製品の保証書……あらゆる場面で必要とされる記録紙です。今回は、旭が丘で記録紙の製造販売を行う「ニッセイロールペーパー株式会社」を訪ね、日野社長にお話を伺いました。



レシートやチケット、食券など記録用のロールペーパーの製造販売を行うニッセイロールペーパー株式会社。国内トップシェアを誇る



今回お話を伺った日野社長

## 国内トップシェア 成功の秘訣とは

昭和45年の創業以来、私たちの生活のなかで欠かせないレシートを中心に、領収書、ATMの明細書、食券、チケットなど、感熱紙(サーマル紙)を使った記録用のロールペーパーを中心に製造販売を行う「ニッセイロールペーパー」。

現在、国内に5万店以上あるコンビニエンスストアのうち、3万店以上が同社のレジロールを使用し、都内のタクシーに関しては、7割近くが同社の領収書を使用しているそうです。

「他社との最大の違いであり利点は、感熱紙を使ったロールペーパーの製造に特化している点です。皆さんロールペーパーというと、トイレトペーパーやキッチンペーパーなどを思い浮かべるようですが、家庭紙関係のロールペーパーの取り扱いはなく、あくまでも記録・印字用のロール紙を製造しています」と日野社長は話されます。

## 製紙業界を取り巻く 現状と新たな展開へ

輸入品の参入やさまざまな媒体の電子化に伴い、製紙業界全体

の景気は厳しいそうです。一方、製紙業界のなかでもロールペーパーに限れば業績の伸びしろは、まだあるそうです。「電子マネー、クレジットカードといったキャッシュレスの時代だからこそ、今まで以上に『そこにどういった取引があったか』を証明するものが求められていく」と話されます。

言い換えれば、「便利になるにつれ、見えない部分(お金の行き来)に対する価値が高まるのでは」と分析されます。

「ただ、この道一本と決めて、地道に商売をしていこうという会社は、今、なかなかないのが現実」とのこと。

どうしても利益や売り上げのことを考えると、多種製品を大量に手がける方が魅力的に見えるからだと思います。

「それでもわれわれは、あえて手間と時間を惜しまず、向き合ってきたと思います。ロールペーパー一個は何円、何十円の世界ですが、その細かい積み重ねが、やがて何百・千・万の収益を生み出す原動力となります。そのなかで、いかに丁寧に品質を落とさず、無駄なく効率的に管理・運営して行けるかが、業界で生き残る鍵となるのではないのでしょうか」と会社の方針を話されました。

## 未来に目を向けた活動 を地域と共に

これまでチャリティーコンサートをはじめ、子どもたちに読んでもらいたい推薦図書「清瀬の100冊(清瀬市の各小学校へ配布)」の購入や清瀬はやきホールに綴帳の寄贈、駅前の花壇の設置や緑地保全

のための「花のあるまちづくり事業」に協力されるなど、地域への貢献活動も意欲的に行うニッセイロールペーパー。

これらの活動は、先代の意思で始められたもので、現在もその意向を引き継いでいるとのこと。

近年では、平成24年に市が日の出町の谷戸沢廃棄物広域処分場で「東京たま広域資源循環組合」より、オオムラサキ(国蝶)の幼虫を100頭譲り受けたのを機に始まった「羽化事業」に賛同し、飼育用のケージを寄付するなど、未来の自然環境に目を向けた活動を行っています。

「自分も清瀬で育ったので、何かお役に立ちたいと常に考えています。どの事業も始めたからには継続していくことが大事」と日野社長。また、子どもをお持ちなので「教育の分野にも関わっていききたい」と話されました。

## 社員の意欲を高める ための工夫とは

現在、従業員は役員を含め63人。「残業をしない」「本を読む習慣を身に付けよう」「社外活動にも目を向けよう(例・市民マラソン参加)」といった方針や考えを打ち出すなど、社員の意識改革にも余念がない日野社長。

特に「残業をしない」方針について、「いかに限られた時間で効率的に仕事を進めるかどうか」が、実は見直せる部分であり、意欲や成果につながると言います。また、自分たちの仕事は社会で、どのような役割を担っているかを日ごろから伝え、認識してもらえよう環境づくりも大切だと教えていただきました。

## 1つのレジロールを 造るには……

続いて、社内と工場を見学。まず、目に飛び込んだのは、「才能は1割、残りの99割は情熱と信念」の名言。ゆるぎない志の高さがうかがえます。少し進むと、落ちていて本を読める図書スペースがあります。ここでは、休憩時間に読めるよう、社員の皆さんが持ち寄った「お勧め本」を棚に並べています。

次に向かったサブ工場では、チケットや食券が製造されています。手動だった時代もあるそうで、いかに今の技術の進歩が目覚ましいかを知ることができました。最後のメイン工場では、主にコンビニエンスストアで使われるレジロールを製造しています。23台の機械が一齐に音を成す姿と、幅1メートルを超える巨大なロール紙に圧倒されました。

## 取材を終えて

世の中のニーズを素早くキャッチし、成長し続けるニッセイロールペーパー。

「常に明るく前向きなビジョンを描く」。その心構えが、さまざまな面に良い影響を与えているという印象を受けました。

また同時に、地域で多くの活動に取り組み、継続していききたいと語る日野社長の姿勢から「地域社会を本当に豊かにしたい」という想いが伝わってきました。

これからは、お客さまからのみならず「社会からも支持される会社」が求められていくのではないのでしょうか。



商品を作る際に出た余り紙を材料にしたトイレトペーパー。売り物ではなく、寄付用の物



(写真左) 幅1メートルを超える巨大なロール紙から、(写真右) のレジロールが造られる